

下野市障がい者相談支援センター

上半期実績報告

平成29年度

下野市障がい者相談支援センター 上半期実績報告 平成29年度

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	障害	その他
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
障害者	98 (+13)	11 (+4)	1 (+1)	22 (-4)	52 (+7)	0 (±0)	2 (-1)	3 (-2)	7 (+4)
障害児	10 (+6)	0 (±0)	2 (+1)	4 (+1)	1 (+1)	0 (±0)	0 (±0)	1 (+1)	2 (+2)
計	108 (+19)	11 (+4)	3 (+2)	26 (-3)	53 (+12)	0 (±0)	2 (-1)	4 (-1)	9 (+6)

(支援方法)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
件数	150 (+19)	60 (+47)	27 (-10)	150 (+79)	4 (+4)	8 (-3)	258 (+155)	11 (+5)	698 (+296)

(支援内容)

	福祉サービスの利用等に関係する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技能に関する支援	その他
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
件数	299 (+131)	52 (+14)	60 (+22)	20 (-5)	0 (±0)	30 (+11)	28 (+25)	32 (+20)	29 (+3)
ピアカウンセリング	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)

	参加・社会生活に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
	(10)	(11)	(12)	(13)
件数	24 (+16)	3 (+3)	121 (+56)	698 (+296)
ピアカウンセリング	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)	0 (±0)
閉所日数				124

※()内は、H28年度上半期実績数との比較

(特記事項)

「精神障害者」と「その他」の利用者数の増加が目立つ。精神障害者に関しては、地域活動支援センターゆうがお利用者への支援（本人中心計画の作成）が今年度より開始されたこと、精神障害者の長期入院患者に対する支援依頼への対応が一因になっていると考えられる。「その他」については障害種別が明確でない方の支援となっており、その内訳を大別すると、ひきこもりや高齢者、児童（児童虐待）など、[関係機関]が大幅な増加となっている。今期は例年と比較し、高齢者、児童といった他分野からの相談依頼が多かった。相談支援センターの機能について啓発が進んだと考えられる。そのほか、ピアカウンセリングにおいて新たな支援を提供するにあたり、関係機関との連携の取組をより高めていく必要性が今後の課題となっている。また、ピアカウンセリングの利用者に対する支援「家計・経済に関する支援」、「社会参加・余暇活動に関する支援」の増加も特徴的である。いずれも地域生活を送っていく上で重要度の高い項目だが、既存の制度や福祉サービスの中で対応できず、公的なサービスのみで対応できない部分もある。公的なサービスのみで対応できない部分があるという視点を持ち、地域にあるものすべてが誰でも利用できる社会環境であるという考えを認識し、支援を計画していく必要がある。

平成29年度

下野市障がい者相談支援センター 参加研修等実績

◎主な活動◎

- ・自治会長会議に参加し、センターの周知活動を実施。
- ・ポラリス視察。
- ・下野市障がい者福祉計画策定委員会。
- ・県南圏域相談支援連携調整会議(GSV)。
- ・認定調査員研修。
- ・国分寺特別支援学校進路相談会。
- ・栃木特別支援学校進路相談会。
- ・栃木県立盲学校進路相談会。
- ・県南圏域連絡会(地域移行・地域定着支援)。
- ・下野市相談支援事業者連絡会、受理ケース会議周知活動。
- ・精神障害者当事者会「おしゃべりサークル(仮)」周知活動。
- ・ゆうゆうすまいる実施。
- ・民生児童委員連絡協議会(国分寺・南河内・石橋)。
- ・下野市自立支援協議会事務局会議。
- ・県南圏域精神障害者地域移行・地域生活支援事業連絡会
- ・県南地区障害者相談支援事業者等連絡会。
- ・国分寺特別支援学校情報交換会。
- ・メンタルヘルスポランティア養成講座(全4回)。
- ・下野市受理ケース会議。
- ・県南圏域障害者相談支援事業者等連絡会。
- ・下野市相談支援事業者連絡会。
- ・地域活動支援センター連絡会議。

◎研修参加状況◎

- ・一般社団法人ソラティオ相談支援センターあらかわ視察研修会。
- ・相談支援従事者専門コース別研修(補装具・記録の書き方、意思決定支援)。
- ・相談支援従事者現任研修。
- ・精神障害者地域移行中核人材育成研修。

下野市障がい者相談支援センター事業計画

平成29年4月1日

計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> 個別支援に関する業務 ピアカウンセリング (毛呂) 障害者虐待防止 障害者差別解消法 に関すること (鈴木) 下野市障がい者 相談支援センター の周知について (毛呂) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談支援のケース引き継ぎ(毛呂) 地域移行支援実施(鈴木) サービス利用・紹介等の調整対応(センター担当) 地域活動支援センター利用者のアセスメント 当事者との定期的な打ち合わせを実施(月1回) 実施に向けての検討。(当事者とセンターの役割を明確化する) 受理票を市と共有。 差別・虐待の相談が入った際には、まず受理。 自立支援協議会事務局会議で、現状確認についての検討の場を提案。 広報誌掲載準備 保護者総会で周知 周知スライドの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 認定調査業務(必要時) 複合(困難)ケースを保健師共に対応 教育課に周知に関する打診 各地区民生児童委員協議会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣に周知 (ex:郵便局、銀行) 下野市相談支援事業者等連絡会(鈴木) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動支援センター利用者更新面接 社会福祉課と振り返り 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動支援センター利用者更新面接 社会福祉課と振り返り 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂)
<ul style="list-style-type: none"> 地域への相談支援 事業所への助言等 (鈴木) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉課に下野市相談支援事業者等連絡会への参加を依頼 協働コーディネーター大嶋さんへ下野市相談支援事業者等連絡会への参加を依頼 地域の相談支援事業所、福祉事業所からの相談対応(困難事例への対応等) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(視察研修会) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(鈴木) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(鈴木) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂) 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂)
<ul style="list-style-type: none"> ゆうゆうすまいる (毛呂) 	<ul style="list-style-type: none"> センターの関わり方の検討 ボランティアの募集(学生ボランティアとの繋がりが形成) サークルの「正確な」周知 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の整理 自立支援協議会との運動システムの構築 会議の運営と内容について検討(周知なども含めて考える)(4月中)。 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(鈴木) ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(鈴木) ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂) ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 下野市相談支援事業者等連絡会(毛呂) ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議
<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 について (鈴木) 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議
<ul style="list-style-type: none"> 定例会議 研修会 定例会 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(毛呂) 県南地区連絡調整会議 	<ul style="list-style-type: none"> 受理ケース会議 県南圏域相談支援事業者等連絡会 ゆうゆうすまいる(鈴木) 県南地区連絡調整会議 業務計画書見直し (下野市役所)

<p>地域への相談支援事業所への助言等</p>	<p>■隔月(奇数月)に下野市相談支援事業者連絡会を開催。 ■地域の相談支援事業所からの相談対応。</p>	<p>■定期的に集まり情報共有や、地域の相談支援事業所の課題が見えた。 ■顔の見える関係が出来ている。</p>	<p>■下野市相談支援事業者連絡会の周知。 ■参加のニーズに則した内容の検討。 ■社会福祉課職員に定期参加の依頼。</p>
<p>ゆうゆうすまいる</p>	<p>■毎月の開催が出来ている。</p>	<p>■余暇活動の場の提供が出来ている。 ■参加者の固定化。</p>	<p>■年度末の収支決算の作成。 ■ボランティアの募集(学生ボランティア等との繋がり形成) ■相談支援センターの引き際の見極め</p>
<p>受理ケース会議について</p>	<p>■毎月参加。</p>	<p>■ケースの共有が出来た。 ■支援の方向性についての助言を受ける事が出来た。 ■ケース検討と地域課題抽出についての時間を割り振り開催をする様にした。</p>	<p>■地域課題の整理(資料などの作成) ■自立支援協議会との連動</p>

平成29年度下野市障がい者相談支援センター上半期事業計画

	具体的な取組	取組結果、成果	今後の課題
個別支援に関する業務	<ul style="list-style-type: none"> ■計画相談支援のケース引き続き ■地域移行支援実施 ■サード利用・紹介等の調整対応 ■認定調査業務 ■地域活動支援センター利用者のアセスメント ■複合（困難）ケースを保健師と共に検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ■計画相談；他事業所へ引継ぎ終了予定。（困難ケースの割り振りを検討中。） ■地域移行；心教会で実施中。今年度中に、朝日会でも事業開始予定（H29年10月開始予定） ■認定調査業務現在ケース無し。 ■本人中心計画作成を開始した為、メンバーとの関わりが増えた。 ■実行出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■計画相談支援の引き継ぎを継続。 ■地域移行支援は今後も継続して実施。 ■保健師と相談支援専門員との役割分担
ピアカウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ■精神障害当事者と月1回のペースで、打ち合わせを実施中。 （例）「精神障がい者当事者交流の場づくり」 	<ul style="list-style-type: none"> ■6月より、毎月第3土曜日16時15分から定期開催をしている。 ■朝日病院デイケアに通所されている方が定期的に参加されており、定着しつつある状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ■バックアップの継続。 ■毎月実施後に、振り返りを行う。 ■主催者から毎月のテーマが設けられるため、テーマを載せた周知文章を相談支援関係者に、当センターより周知をしていく。
障害者虐待防止法、障害者差別解消法に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ■受理票を市と共有する。 ■差別・虐待の相談が入った際に受理をする。 ■自立支援協議会事務局会議で、現状確認についての検討を提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自立支援協議会事務局会議にて、現状確認の検討する場についての提案を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者虐待防止センターの周知 ■虐待ケース（疑いを含む）が上がってきた時の対応方法の再確認。（虐待受理ケース会議の必要時間確保等） ■社会福祉課とともに、下野市障がい者相談支援センターも相談窓口となっているが、現状相談ケースはない。今後、市としてセンターが関係するにあたっての方針はどのような点になるか確認。
下野市障がい者相談支援センター周知について	<ul style="list-style-type: none"> ■市民協への参加。 ■広報誌への掲載。 ■保護者総会での周知。 ■教育課に周知に関する打診。 ■近隣への周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民協での周知活動を実施。（センターのチラシを使用して周知） ■近隣への周知活動を実施出来ていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市民協へ、周知を含めた継続的な参加。 ■昨年末に参加をした、自治会長会議で周知活動を実施。 ■教育課への周知に関する打診。

平成29年度 活動から確認された地域課題

- 障害種別の判断が出来ない人への対応手段
(どこまで、いつまで関わればいいのか？ 終結はどこなのか？)
引きこもりケースへの相談支援センターとしての関わり方やケースの終結はどこにあるのか？ それらの手段や情報が共有出来るものがあると良い。
- 子どもから高齢者、引きこもり等様々なケース相談が増えてきている。その傾向からも見て、今後の相談支援体制を検討する機会が設けられると良いのではないかと。(障がい部門でも基幹型相談支援センターが必要ではないか？)
- 基幹型包括支援センター、地域包括支援センター、下野市障がい者相談支援センターの役割などをお互いが知る機会があると良い。
- 年齢や、障がいの有無に関わらずに相談する事が出来る総合窓口があると良い。
- 福祉サービスに限らず受け入れてくれる場所が地元にあると良い。(自転車や徒歩で通える場所があると良い)
- 仕事の体験が出来る場所があると良い。
- 福祉サービスの利用にあたり、相談窓口が重層的になってしまうことでの分かりにくさが生じているのではないかと。
(例) こども福祉課で障がい福祉サービス利用ニーズのキャッチ→申請手続きのための社会福祉課への促し→計画策定事業所紹介のための委託相談支援への促し→計画策定事業所への紹介
- 障害の認定が不確定な児童の学童保育利用が難しい。
 - ・学童の支援員不足
 - ・支援員のスキルアップの必要性(定例研修)
- 他市町から転入してくる要支援ケースの情報共有体制
- 保護者に対する障がい受容・理解のためのサポート体制
- 世話人が常駐しているグループホームの必要性
- レスパイト目的で入院ができる医療機関の必要性
- 地域定着支援の事業所の充実
- 移動の問題。出勤や通所についてのサポートが不十分。
- 放課後等デイサービスが見つからない。夏休み期間中は特に顕著。
- 市内の生活介護事業所の少なさ。特に身体障害者で車いす利用者が利用できる事業所が限られている。
- 強度行動障害の方の受け入れ事業所が県内には無い(入所定員の関係)。
- 障害が確定していない児童の放課後の居場所がない。
- 学童保育のスタッフ向けの研修継続の必要性。
- 要支援者の他市からの転入に伴う引継ぎの曖昧さ。
- 障害受容、障害理解を促すリーフレット等があると良い。
- 精神障害者がレスパイト目的で入院できる体制があると良い。
- 支援学校の保護者が、福祉サービスの情報量に偏りがある(持っている人といない人の差がある。)
- 引きこもりサポーターの充実。
- 引きこもりに関しての理解が低い(引きこもり=精神のイメージが強い)
保健師連絡会に投げてみてはどうだろうか？
- 保健師と相談支援専門員の業務が増えてきている。基幹型相談支援センターの必要性を考えていく必要があるのではないかと？
- 地域移行が進まない。背景として「地域移行支援の活用方法を病院が知らない」、「病院と地域の懸け橋となるPSWと地域との連携力の弱さ」、「長期入院者の退院意欲、退院意思を拾い切れていない」、「そもそも地域移行支援を担う事業所が少ない」等が考えられる。
- 地域移行支援の対象者について、事業所体験の際の送迎支援があると良い。
- 障がい者の性について支援者が考える機会があると良い。